

平成 28 年 6 月 24 日

溶融塩委員会委員各位

平成 28 年度「溶融塩賞」受賞候補者の推薦のお願い

電気化学会溶融塩委員会
委員長 鈴木 亮輔

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当委員会の活動にご協力、ご高配を賜りまして誠に有難うございます。さて、昭和 61 年度より設置されました「溶融塩賞」の候補者は近々選考委員会におきまして選考作業に入ります。つきましては会員各位に広く候補者のご推挙をお願い致したく存じますので、9 月 14 日必着として事務局宛に文書にてご推挙の旨賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 受賞対象について

化学、冶金、窯業など主に高温を取り扱う分野全般を対象とし、電気化学会誌、大会、溶融塩委員会、溶融塩化学討論会およびこれに準ずる会にて発表された研究および研究者を対象とする。

2. 件数について

原則として毎年 1～2 件とする。

3. 候補者の推薦期限について

平成 28 年 9 月 14 日(水)必着

4. 推薦書の形式

別紙テンプレートの通り。枚数は自由とする。

5. 推薦状の送付先

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
北海道大学大学院工学研究院材料科学部門内
溶融塩委員会事務局
TEL: 011-706-6339/6342、 FAX: 011-706-6342
E-mail: msc@electrochem.jp

■熔融塩賞について

昭和 58 年（1983 年）、熔融塩委員会設立 25 周年の記念事業の一つとして第 1 回の「熔融塩化学および技術に関する国際会議 (International Conference on Molten Salt Chemistry and Technology)」が、当時、熔融塩委員会委員長であった渡邊信淳・京都大学工学部教授（現、京大名誉教授・（財）応用科学研究所）を組織委員長として、京都国際会議場にて開催されました。この国際会議は、世界各国から約 300 名余の参加者を得て、大成功のうちに閉幕となりました。この国際会議の成功を記念して熔融塩賞が制定され、1986 年（昭和 61 年）から毎年授賞が行われています。

選考基準は「化学、冶金、窯業など主に高温を取り扱う分野全般を対象とし、電気化学会誌、大会、熔融塩委員会、熔融塩化学討論会およびこれに準ずる会にて発表された研究および研究者を対象とする」となっており、原則として 1 名または学界・産業界から各 1 名が選考されています。

■熔融塩賞受賞者一覧（所属は受賞当時）

回	年度	氏名	所属	選考の対象
第 30 回	2015	兼松 秀行	鈴鹿工業高等専門学校	各種材料プロセスへの熔融塩技術の応用と展開
第 29 回	2014	水畑 穰	神戸大学大学院工学研究科	異相共存場における熔融塩の物性と挙動に関する研究
第 28 回	2013	光島重徳	横浜国立大学大学院工学研究院	熔融塩を用いた燃料電池の材料およびシステム研究
第 27 回	2012	該当者なし		
第 26 回	2011	大鳥範和	新潟大学理学部化学科	計算機実験による熔融塩の熱伝導率評価
第 25 回	2010	竹中俊英	関西大学化学学生命工学科	熔融塩を用いた各種金属電解精錬法の開発
第 24 回	2009	鈴木亮輔	北海道大学工学研究科	熔融塩化カルシウムを用いた金属酸化物の直接還元法に関する研究開発
第 23 回	2008	萩原理加	京都大学大学院エネルギー科学研究科	高機能熔融塩の開発と応用
第 22 回	2007	田中敏宏	大阪大学大学院工学研究科	高温界面物性とその応用に関する研究
第 21 回	2006	該当者なし		
第 20 回	2005	佐藤 譲	東北大学大学院工学研究科	熔融塩のイオン構成と物性値に与える影響
第 19 回	2004	小浦延幸	東京理科大学理工学部	常温型熔融塩の電析および電池用電解液への応用と浴中イオン種の構造解析
		東城哲朗	東洋炭素株式会社	HF 含有熔融塩系における電解反応の研究およびオンサイトフッ素発生システムの開発
第 18 回	2003	松永守央	九州工業大学大学院工学研究科	室温熔融塩系における電気化学測定と表面処理への応用
第 17 回	2002	岩館泰彦	千葉大学大学院自然科学研究科	光をプローブとして用いる熔融塩の物理化学的性質と構造の研究
第 16 回	2001	山村 力	東北大学大学院工学研究科	熔融塩の輸送特性の測定と物理化学的諸性質の解明
		百田邦堯	森田化学工業株式会社	HF 系常温熔融塩の開発とそれを電解浴に用いた電解フッ素化に関する研究
第 15 回	2000	川上正博	豊橋技術科学大学工学部	熔融塩を用いた新たな材料プロセスの開発
第 14 回	1999	香山滉一郎	姫路工業大学工学部	バナジウム・モリブデンおよびタングステンの熔融塩電解に関する研究
		藤田玲子	東芝電力システム株式会社	熔融塩技術の原子力分野への応用
第 13 回	1998	出来成人	神戸大学工学部	電解質・水系を対象とした溶液化学の研究
第 12 回	1997	太田健一郎	横浜国立大学工学部	熔融塩を用いたエネルギー変換プロセスの材料科学研究
第 11 回	1996	市川和彦	北海道大学大学院地球環境科学研究科	複雑イオン融体の構造、物性と機能に関する基礎科学研究
第 10 回	1995	原 茂太	大阪大学工学部	熔融塩酸および熔融塩酸化物・弗化物の物性値測定と冶金反応の速度論的研究
第 9 回	1994	田坂明政	同志社大学工学部	酸性フッ化物系の電解反応に関する研究
		玉村英雄	昭和電工株式会社	熔融塩電解による Nd-Fe 合金の工業製造プロセスの開発
第 8 回	1993	内田 勇	東北大学工学部	高温イオン性融体系における電気化学ならびに熔融炭酸塩型燃料電池の工学的基盤確立に対する貢献
		澁谷敦義	住友金属工業株式会社	熔融塩を用いた鋼板亜鉛メッキ技術の発展に貢献

回	年度	氏名	所属	選考の対象
第7回	1992	児玉皓雄	大阪工業技術試験所	熔融炭酸塩型燃料電池発電技術開発のプロジェクト立案、研究開発を通じて、熔融塩および高温化学の発展に貢献
		山本和弘	三徳金属工業株式会社	レア・アース金属の工業生産技術に関する研究を通じて、熔融塩および高温化学の分野の発展に貢献
第6回	1991	持永純一	千葉大学工学部	熔融塩の物性と構造の研究
第5回	1990	伊藤靖彦	京都大学工学部	熔融塩系の電気化学工学
第4回	1989	岡田 勲	東京工業大学大学院総合理工学研究科	熔融塩の分子動力学シミュレーション
第3回	1988	児嶋弘直	山梨大学工学部	熔融塩を用いた機能性化合物の合成
		金谷泰宏	ダイソー株式会社	ニオブ酸リチウム単結晶の製造と用途
第2回	1987	石川達雄	北海道大学工学部	塩化アルミニウムの高温熔融塩電解による省エネルギー・高生産性アルミニウム製造に関する研究
		八剣吉文	小松電子金属株式会社	熔融塩電解を利用した新しいモノシラン製造法の開発
第1回	1986	沖 猛雄	名古屋大学工学部	熔融塩化学反応を利用した金属表面処理に関する研究
		南浦基二	住友アルミニウム製錬株式会社	省エネルギー・省力化アルミニウム電解炉の開発と操業技術の確立